



•Tackle Guide
道糸の太さは「できるだけ4〜5号を使ってください」と船長。3号以下はオマツリしたときに摩擦で切れやすく、仕掛けに細かく巻き付けて非常にほどきにくいそう。



▲追い食いさせて何尾掛けるか。そこがまた楽しみの一つ

位置で待つか、50センチ刻みで巻いては止めて、追い食いさせる。ムツやキンメの群れに当たるチャンスは何回もな

当日のライト中深海五目仕掛け

狙いの五目釣りなども乗合スタイルで柔軟に受け付けてくれるそうだが、なんと冬も冬のイチ推しは、「ほぼ毎日出船しているライト中深海五目。うちは極端に深いポイントはやりませんから、手軽なタックルで中小型

二枚潮の中で勝負!

予想どおり、日が高くなるにつれてムツの気配は薄くなって、オオメハタやワキヤハタなどの通称シロムツ、40センチのメダイ、ユメカサゴが釣れる頻度が増えていく。

小山さんはアカムツを狙って、下バリ2本に持参したホタルイカを付け足していた。「まあ、相模湾ではたまたま釣れる程度ですけどね」とは

▼饕餮な顔付きときは裏腹に、その身は脂が乗って美味



投入は合図と同時にお願いします。投げ遅れた人は、オマツリを防ぐために次の流しま

みるところが仕掛けを下ろしてみると道糸が真つすぐ立たず、オマツリが多発。どうやら上と下の流れが違う二枚潮らしいが、潮が動けば魚は釣れると判断した船長は、「一流し1投でいきましよう。投入は合図と同時にお願いします。投げ遅れた人は、オマツリを防ぐために次の流しま

いうものの、ムツのアタリが遠い時間は、宝くじ感覚でアカムツの夢を見るのも楽しい。しかし10時を回ったところで潮も止まってしまい、「30分くらい走りまーす」と船長。向かった釣り場は若干深い三戸浜沖の水深240〜300メートルで、こちらははっきり潮が流れている。

晴天ナギの海上も心地よかつたけれど、実のところ深海のムツやキンメがもつとよく釣れるのは曇天。数年前の冬のこと、天気予報が悪かったせいでお客さんが来ず、仲乗りの高野さんを含む3人で出船したことがある。そのときは良型のムツ、さらにキンメやスマイヤキが入

「ムツは順調です。とくに日の出から1時間がチャンスタイムなんです。朝方はサバの活性も高いので、ハリ数は5本くらいに抑えたほうがいいですね。それからキンメとアカムツは...時の運かな」釣りの基本手順はオモリが着底したら1メートル巻き上げ、海底の起伏に合わせて底ダチを取り直していくシンブルなもの。通常、ハリ数は7本前後の人が多いのだが早朝はその上バりにサバが食ってくる確率が高いようで、その対策としてハリ数を減らすというわけだ。

斜めに道糸が流れてちょっと釣りにくいものの船長の読みは正解。単発ながらだれかしらにアタって、25〜35センチのムツが上がってきた。そしてお昼を回った沖揚がり間際の一流しで、群れのご真ん中にストライク。「着底直前にアタったよ」と喜ぶ白桃さんはムツの一荷、「最初にアタリがきてから、上下をしつこく探って追い食いさせました」と言う田口さんは30センチ弱のキンメ1枚にムツ2尾、さらにシロムツ2尾の5点掛けを達成。ほか数名の皆さんもここで型を見て、気持ちよく帰港することができた。ムツの釣果は2〜10尾でトップは田口さん。5名の方が7尾前後を釣り上げていたから、ますますの一日といえる。

で待つてくださいいね」とアナウンス。斜めに道糸が流れてちょっと釣りにくいものの船長の読みは正解。単発ながらだれかしらにアタって、25〜35センチのムツが上がってきた。そしてお昼を回った沖揚がり間際の一流しで、群れのご真ん中にストライク。「着底直前にアタったよ」と喜ぶ白桃さんはムツの一荷、「最初にアタリがきてから、上下をしつこく探って追い食いさせました」と言う田口さんは30センチ弱のキンメ1枚にムツ2尾、さらにシロムツ2尾の5点掛けを達成。ほか数名の皆さんもここで型を見て、気持ちよく帰港することができた。ムツの釣果は2〜10尾でトップは田口さん。5名の方が7尾前後を釣り上げていたから、ますますの一日といえる。

●船宿 information

相模湾腰越港
秋田屋
☎0467-31-1289
(詳細は巻末の情報欄参照)
▶料金=LT 中深海五目乗合1人1万1000円
(サ/切り身エサ1パック、水付き)
▶備考=要予約、船着き場に5時〜5時30分集合。
レストラン隣り&民宿併営。予約で入浴、釣魚の料理もOK



齋藤 太俊船長

れ食いだった。今回、取材の翌日は雪が降りそうな薄暗い一日。もしやと思っていたら竿頭は20尾以上のムツを釣り上げたそう。潮の動きも関与するので絶対とは言えないものの、天気がいちの日はむしろチャンス。そう思えば、厳しい寒さも少しは和らぐはずだ。



▲異様に重い物体はミズブク(ヨリトフク)だった



▲ライトな道具立てで、このサイズのムツを釣らせてくれる

相模湾のおいしい魚を、老若男女、腕前問わずに釣って楽しんでほしい。腰越港・秋田屋の齋藤太俊船長が目指すのは、ハードルが低くてのんびり遊べるそんな釣り船だ。3名以上でリクエストすればアマダイやマダイ・イナダ

狙いの五目釣りなども乗合スタイルで柔軟に受け付けてくれるそうだが、なんと冬も冬のイチ推しは、「ほぼ毎日出船しているライト中深海五目。うちは極端に深いポイントはやりませんから、手軽なタックルで中小型

初心者も楽釣！オモリ150号でムツ、キンメを手軽に釣ろう

●相模湾腰越港発↓腰越〜三戸浜沖

本誌編集部/尾川泰将 Yasunaga Osamu

のムツやキンメ釣りを楽しまますよ」とのこと。

特徴は二つあって、まずオモリが150号と軽い。もう一つはPE4〜5号を350〜400メートル巻いた電動リールがあればOKという点だ。

適合する竿はオモリ負荷表示がMAX150号の汎用ゲームロッド、ビシ竿、青物竿、ヤリイカ竿と色いろ。電動リールはダイワ4000〜5000番やシマノ20000〜30000番あたりになり、船長の言葉どおり比較的手軽な道具で深海の根魚が狙える。

日の出直後にムツ連発

取材日は12月24日。クリスマス・イブとあって少しは空いているかと思いきや、左舷前から門脇さん、土屋さん、丸山さん、松崎さん、右舷は田口さん、南さん、小山さん、白桃さんと8名が並んで大盛

況。甘いケーキやキンより自分用のおいしい肴がほしいのだろう。東の空が白み始めた6時過ぎに岸壁を離れ、30分ほどゆっくり走って腰越沖の水深200〜230メートル付近に到着。船長がじっくりと魚探をにらんでいる間、仲乗りの高野さんに近況を聞いてみる。「ムツは順調です。とくに日の出から1時間がチャンスタイムなんです。朝方はサバの活性も高いので、ハリ数は5本くらいに抑えたほうがいいですね。それからキンメとアカムツは...時の運かな」釣りの基本手順はオモリが着底したら1メートル巻き上げ、海底の起伏に合わせて底ダチを取り直していくシンブルなもの。通常、ハリ数は7本前後の人が多いのだが早朝はその上バりにサバが食ってくる確率が高いようで、その対策としてハリ数を減らすというわけだ。

初めてならば3本バリで

「この釣りは、手前マツリしないように仕掛けをさばくことが第一歩。そこで初めての方にはこれをすすめてます」。そう言って齋藤船長が見せてくれたのは船でも販売している、がまかつの3本バリ仕掛け。投入、回収もこれなら安全で楽ちん、しかもそこそこよく釣れる。初挑戦でも船長とスタッフの高野さんが優しく教えていらいアドバイスしてくれるので安心、慣れたところでハリ数を徐々に増やし、ステップアップしていこう。



船ペリに並ぶエサバリ(エサはサバの切り身)を見て回ると、高野さんのアドバイスどおり皆さん5本。「日が高くなってサバが減ったら7本以上に増やします」という人もいれば「5本のままでのんびり遊ぶよ」という

ベテランさんもいて人それぞれにマイペースな雰囲気の中、「どうぞ、230メートル。浅くなっていくので、まめに底を取り直してください」船長の合図で一斉にオモリを投入。そして着底後、1分ほど流し込んだところで全員が竿先がガタガタと揺れた。ここですぐに巻くのはもったいない。10〜30秒ほどその